令和８年度「まるごと山形歴史物語」各月テーマ

期日	タイトル	内　　容	講　師
4/25 （土）	考古学と遺跡発掘の舞台裏	遺跡や遺物から遠い昔の歴史を掘り起こす「考古学」の基礎知識とともに、現場での発掘から室内での遺物の整理・復元、報告書刊行に至るまでの一連のプロセスを、専門家が解説します。	山形県埋蔵文化財センター 天本昌希 氏
5/30 （土）	「さくらんぼ王国山形」の歴史	「さくらんぼ王国山形」の歴史と美味しさの秘密を紐解きます。佐藤錦から最新品種「やまがた紅王」へと至る品種の軌跡と栽培技術の進化をたどり、これからのさくらんぼ栽培を展望します。	東北農林専門職大学 石黒亮 氏
6/13 （土）	夭折の天才画家「関根正二」と山形の関わり	日本近代洋画の傑作『信仰の悲しみ』（重要文化財）で知られる「関根正二」。若干二十歳で没した天才画家は山形とどんな接点を持っていたのか、その意外な関わりを探ります。	郷土史家 野口一雄 氏
7/11 （土）	本土決戦に備える、ロケット機「秋水」の山形拠点化～山形に実在した極秘プロジェクト～	終戦間際、本土防衛の切り札として開発されたロケット戦闘機「秋水」。その生産拠点が山形にあった事実は、今では殆ど知られていません。極秘プロジェクトの裏側や動員された学徒・一般市民・技術者の苦闘を通し、語り継がれなかった郷土の歩みと当時の社会を振り返ります。	天童生まれデクの坊 横山孝男 氏 WWⅡ飛行機愛好家 片桐鉄哉 氏
8/29 （土）	氷河期に最上川のそばで暮らしていたヒトびと	約１万８千年前の氷河期、縄文時代よりも古い、いわゆる「旧石器時代」と呼ばれる時代に、ヒトびとは最上川のそばでどのような暮らしを営んでいたのでしょうか。近年の発掘調査によって発見された彼の痕跡から、その生活ぶりを探ってみましょう。	山形県埋蔵文化財センター 大場正善 氏
9/19 （土）	やまがたの絵馬にみる「なりわいとまつり」	午年にちなみ、絵馬の宝庫といわれる県内の、人びとのくらしや仕事を描いた絵馬、まつりや行事を描いた絵馬を紹介します。	郷土史家 野口一雄 氏
10/17 （土）	居合の祖・林崎甚助と居合道の世界	室町時代後期に現在の村山市林崎に生まれた、居合の開祖・林崎甚助の足跡をたどるとともに、居合道の世界をご紹介します。 後半は、今も息づく迫力ある居合の演武を、ぜひ会場でご覧ください。	居合道教士７段 齋藤隆 氏
11/21 （土）	農民の困窮を綴った目安状	一揆の引き金となった役人の悪政や農民の困窮を訴え出た文書が「目安状」です。寒河江の「白岩目安」、「小国目安」、高畠の「信夫目安」など各地の目安状は、単なる争いの記録にとどまらず、お上に訴え出る正式な文書の手本や歴史の教訓として、後年、寺子屋の教材・往来物（当時の教科書）へと受け継がれました。	郷土史家 野口一雄 氏
12/5 （土）	縄文時代の『旅をする石』～ヒスイ・緑色石英・蛍石・黒曜石～	石器や装身具に使われたヒスイや黒曜石など、石材の産地をたどると縄文人の活発な交流が見えてきます。近年判明した緑色石英や蛍石などの希少な石材にも注目し、当時の流通ネットワークを解説。会場には県内出土の実物を展示します。遥か彼方から届いた「旅をする石」を、間近でお確かめください。	山形考古学会会員 三澤裕之 氏